

## 図書カード

佳明、できた？」

まだだよ。」

明日が提出だけ。」

標語ってさ、いまいちよく分かんないんだよね。だけど国語の点にもなるからとりあえず何とか形にしとかなきゃな。」

そういえば、あの標語ってさ、最優秀賞に選ばれたら、一万円分の図書カードがもらえるそうだよ。」

ええっ、作品を作るだけで、選ばれたら、そんなに。」

中学二年生の佳明は国語の授業で「真の交通安全標語コンクール」に出品する作品を作ってくるよう課題を出されていた。図書カードのことを聞いて、佳明は、応募用紙が一万円分の図書カードに見えてきた。

バスケット部の練習を終え、家に帰りながら、佳明は交通安全標語のことが頭から離れなかった。その一方で、標語はなかなか思い付かない。結局朝を迎えてしまった。切羽詰まった佳明は、ネット上で「交通安全標語」と検索をかけた。

学校に着くと、義広よしひろがやって来た。

「自転車もハンドル握ると『ドライバー』か。さすがだなあ。佳明は何をやってもうまいよな。」

まあな．．．。」

それから、半年後のことだった。

佳明くん、やったぞ。呉市長賞だ。」

国語科担当でもあり担任の藤野先生がうれしそうに、体育館で部活中の佳明に報告に来た。

えっ、何のことですか。」

二年生のときに出した『真の交通安全標語コンクール』で「一番いい賞をもらったよ。先生の教員生活で初めてのことだ。先生も本当にうれしいよ。それにしても、いい標語を作ったなあ。自転車もドライバー扱いだよな。うまいよ。」

今年で定年退職される藤野先生は、自分のことのように喜んでくれた。

あっ、あの図書カードのやつか．．．。ラッキー。」

その瞬間、あのことを思い出してしまった。

それで来週の土曜日に呉警察署で表彰式が行われるんだ。保護者の方にも一緒に来ていただけるかな。」

え、あ、・・・。」

じゃ、楽しみにしてるぞ。」

表彰式を翌日に迎えた金曜日。佳明は練習に全く身が入ってなかった。

おおい、ノーマークじゃないか。それを落としてどうやって勝つんだ。それに、声も全然出てないぞ。今日は全然だめだ。外周を走ってこい。」

練習が終わり、佳明は、いつも通りマネージャの和音な おと一緒に二河川沿いの歩道を歩いていった。

佳明、何か最近おかしいよ。キャプテンが元気ないと、みんなおかしくなるのよね。うちのキャプテンはだれにもかえられない、佳明だよ。しっかりしないと。」

だれにもかえられない・・・か・・・。」

佳明はキャプテンとしての役割と、人の標語を勝手に応募してしまった自分、そして明日の表彰式のことを思うと、眠りにつけなかった。

そして土曜日。